

今日のみ言葉 224 「水のない荒野を」 2013. 2. 13

主はあなたを、蛇やさそりのいる、あの水のない渴いた、
広くて恐ろしい荒れ野を行かせ、
硬い岩から水を湧き出させ、
あなたの先祖が味わったことのないマナを荒れ野で食べさせてくださった。
それは、あなたを苦しめて試し、ついには幸福にするためであった。

(申命記 8 章15～16より)

The Lord guided you through this vast and dreadful desert,
a land of fiery snakes, scorpions,
who in this waterless place brought you water out of the flinty rock;
who gave you manna to eat in the desert, something your fathers had never known,
to humble and to test you so that in the end it might go well with you.

神は、とくに選んだイスラエルの民を、あえて荒野、砂漠のような土地を通る道を歩ませた。それは数週間もあれば行ける距離であったのに、40年という歳月を要して、目的のカナンに到着するという驚くべき長期間にわたる旅であり、生活であった。

この聖書に記された神の民の歩み、その後の長い歴史において、無数の信仰に歩む人たちが同様の道を歩むことになった。

神はしばしば私たちが苦しむような状況に直面させる、しかしそれが目的でなく、最終的には真の幸いへと導くためである。

これは、一部の人だけに成り立つというものでなく、あらゆる人にあてはまるゆえに真理なのであり、聖書に神の言葉として収められているのである。

この世を、生きることは、たしかにしばしば水のないところを歩くことである。このうるおいなど全くないような、人間同士の差別や対立、あるいは衝突、そして災害や病気の苦しみ等々は、何らかの形で、どのような人であっても生じてくる。

それは人によって異なるが、ここに書かれたような、恐ろしい精神の荒野であり、そこには蛇やさそりというべきものが現れて私たちに毒を与えようとする。

そのような悪意や誘惑という毒をもったものが私たちの前途に現れ、そしてじっさいにそれらのものに倒されていく人たちも多くいる。

だが、他方、そのような恐ろしいこの世にあっても、水を飲ませ、天来の食物をもって養い、それらの毒に噛まれないように守り、導く大いなる御手がある。

そして、そのようなこの世の苦しみをすべて愛なる神が、私たちの最終的な幸いのためになさっているのだと、信じるように導かれる。

そうした歩みをするとき、じっさいに、5年、10年という歳月の後には、たしかにこのみ言葉が言うように、数千年の歴史において、私たちの本当の幸いへと導かれていったという人たちが無数に起こされてきたのである。



コマクサは、高山に咲く花ではとりわけ有名なものです。私は、50年近く前に大雪山で、その10年ほど後、北アルプスの後立山連峰を縦走していたとき、見たものですが、それ以来、長く見ることがなかったものです。この写真は、岩手から、山形県北部に向う途中で登った秋田駒ヶ岳でのものです。この花は、こうした火山性の砂礫地に育っていて、それは、ほかの植物は生育できない困難な環境です。

しかも、この花は、カムチャッカから、北海道の大雪山や、知床、あるいは東北の岩手山、蔵王、中部山岳地帯の白馬岳等々、高山の厳しい寒さにさらされる地域に分布していて、その生育は強い風、氷雪、水や栄養分のごく少ない地で育つという特異なものです。そしてこのような大きさの株になるには、10年、20年という歳月がかかるといいます。厳しい風雪と寒さに耐えた驚くべき結晶がこの花なのです。

神は、本来なら、生きてはいけないような厳しさにもそれに耐えて生育していく力を与え、それをとおして人間にも、神の御手のなすわざのはかりしれない多様性とそこに秘められた力、そして美しさを伝えているのです。 (文・写真ともT. YOSHIMURA)